

平成29年度 第2回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成29年5月25日(木) 午後7時00分～8時50分
開催場所	前原町西之台会館
参加者	男性 4名 女性 2名 計 6名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 懇 談 (1) 市政報告 (2) 意見交換 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・ 市議会議員選挙の投票率及び開票作業・ ごみ問題・ 北朝鮮からのミサイル発射に対する市の対策・ 市民と市長の座談会における手話通訳・ イベントカレンダーの活用・ 市の予算の内訳・ 福祉会館の撤去計画・ 高齢者対策・ 国民健康保険・ ごみのリサイクル・ P D C Aの確立
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成29年度 第2回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんばんは。本日はご参加いただきましてまことにありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この座談会は、昨年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2回から4回程度、定期的で開催するものでございます。本日は、今年度の第2回目の開催となります。市民の皆様からの率直なご意見を伺い、市政に反映させたいという思いから、特にテーマは設定せず、フリートークというかたちで開催させていただきます。

本日の進行についてでございますが、このあと、市長の西岡より皆様へごあいさつをさせていただきます、その後、懇談となりますが、皆様との意見交換の前に、市長のほうから、市政を運営していくにあたっての方針やこれまでの状況についての報告等をさせていただきます。市政報告後、皆様からの自由なご意見を伺いまして、それぞれ市長が回答するというかたちで進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ここで、3点ご了承いただきたいと存じます。1点目、本日は、議事録作成のため録音をさせていただきます。2点目、ホームページ掲載用に写真を撮らせていただきます。後から撮りますので、皆様の顔が写ることはないかと思いますが、それでも写真を撮られては困るという方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

本日の終了時刻は午後9時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては、速やかにご退場いただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。はじめに、市長の西岡よりごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

○西岡市長

こんばんは。ご紹介いただきました、市長の西岡真一郎でございます。

本日は今年度2回目となります市民と市長の座談会にお越しをいただきまして、誠にありがとうございます。

私が市長に就任させていただいてからですね、1年と半年が経過したところでございます。就任以来これまで、新庁舎建設、(仮称)新福社会館の建設、清掃関連施設の整備、待機児童解消対策等、様々な課題に取り組んでまいりましたが、平成29年度は、これら小金井市が抱える諸課題を解決するための、極めて重要な1年であると位置づけております。

本日は、これまでの取組みに対するご意見、今後の進め方についてのご要望、などなど、みなさんから忌憚のないご意見をたくさんいただきまして、今後の市政運営の参考にしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

西岡市政の基本は“対話”であります。市民の皆様との対話、議会の皆様との対話、職員の皆様との対話、それらを大切にして市政を運営しております。また、この間、若者との対話、職員との職場協議、町会・自治会の役員の皆様方との初めてのブロック別の開催。また、三師会や各種団体、福祉関係の団体、たくさんの方々との意見交換、対話。また、市民の方々からもご面会のご要望が多数寄せられておりまして、精一杯お応えをしているところでございます。また今年度からは、初めて、子ども達との対話にも取り組ませていただきます。公立小学校9校、中学校5校ありますけれども、数ヶ月に一度、学校に行きまして子ども達と一緒に給食を食べながら、子ども達の声も聞かせていただきたい。6月にはですね、たしか二小をかわきりに、14校回らせていただきたいと思っております。

本日も皆様との対話を通して、たくさんのご意見をいただき、それを今後の市政運営にしっかりと反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。また、この対話集会、市民と市長の座談会1回目を開催したときには、保護者の方から、子どもがいる人はなかなか来れないですから、保育士さんをちゃん

とつけてくださいというご要望がありまして、今日も、前日もそうでしたけれども、お子様連れの方も参加できるように、保育士さんには、二人待機していただいております。

それでは、今日一日、限られた時間ですけれども、よろしく願いいたします。

○司会者

続きまして、懇談に移らせていただきます。

はじめに、市長から市政報告をさせていただきます。

○西岡市長

それでは、座ったまま失礼をいたします。

まず、資料といたしましては、皆様方に施政方針、平成29年の施政方針をお配りしてございます。基本的に、今日はこの施政方針に則って、小金井市政の全体のお話をさせていただきます。

続きまして、行財政改革プラン2020。これは策定したばかりでございます。市長に就任させていただいてから、1年と数ヶ月、このプラン作りはかなり力を入れてまいりました。こちらはですね、今日は詳細なご説明はできないかもしれませぬけれども、ぜひ、お目をとおしていただければというふうに考えております。

なお受付のところでは、さまざまな資料をご用意いたしております。すでにお持ちの方もいらっしゃると思います。お持ちでない方は、帰りに手にとっていただければ幸いですが、小金井市の広報秘書課で作成したばかりの「小金井市はこんなところですよ」というPR、小金井市のパンフレットです。それから「小金井の坂」という遊歩道マップ。小金井は坂のあるまちです。このマップもご活用ください。昨年の5月からジェイコムという番組で「長つと散歩」という、私がレポーター役を務めながらまちの魅力、人、文化、歴史、産業、商工業、たくさんの魅力を発信するための番組を作っております。今ちょうど、放映中でありましてけれども、ぜひジェイコムを見られる方はですね、この番組を見ていただいて、市内外の方々に、小金井の魅力伝えていただければと考えております。それから「勇気と希望がわいてくる魔法の言葉集」という資料をお配りさせていただきます。これは小金

井市の教育委員会が作成しているものでありまして、大変、保護者の方、子ども達、メディアなど、好評でございます。これは、子ども達が、落ち込んだり、悩んだり、苦しいときに、保護者、先生、友達、きょうだい、そういった方々から、こういう言葉をかけてもらって、元気が出た、立ち直った、そういう言葉を一度集めて配ってみようということで取り組みました。そして、子ども達にとっても、元気の出る言葉がたくさんありますが、言霊という言葉がありますけれども、言葉には本当に魂がありまして、本当にいい言葉には、人を立ち直らせる力があると思っております。大人が読んでも、とても感動するメッセージがたくさんありますので、ぜひご参考にしていただければと思っております。

それでは、引き続き、私のほうから市政報告をさせていただきたいと思えます。

まず、本市の最重要課題であります、可燃ごみの処理につきましては、引き続き多摩地域各団体のご支援をいただき、滞りなく処理することができています。日野市、国分寺市との共同処理につきましても、3市で構成する浅川清流環境組合におきまして、平成32年の4月からの新施設の本格稼働へ向けて、順調に準備が進められております。また、31年の10月の試験運転開始ということも目標になっております。本日お集まりの皆様におかれましても、ご支援をいただいている多摩地域の各団体及び新施設建設予定地である日野市の施設周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様への感謝の気持ちを忘れないでいただき、引き続き、ごみの減量及びリサイクルの推進にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

私は、今年の1月26日、平成29年第1回市議会定例会におきまして、施政方針を述べさせていただきました。今日はこの、お手元にお配りしております施政方針を、ページをめくりながら市政全体、そして特にお伝えしたい取組みなどにつきまして、ご報告をさせていただきます。この中で、平成29年度の取組みを、七つの基本政策に沿って申し上げます。一つ目は「子育て環境日本一の小金井」、二つ目は「健‘幸’長寿・ささえ愛の小金井」、三つ目は「歩いて楽しいにぎわうまち小金井」、四つ目は「地域がいのちを守るまち小金井」、五つ目は「湧き水と緑・桜を守るまち小金井」、六つ目は「スポーツ・文化都市小金井」、七つ目は「新しい自治体経営に挑む小金井」です。これら七つの基本政策のもと、私はいつも大切にしている三つのスローガン、誇りの持てる小金井、住み続けたいと願われる小金井、

市民力・地域力が活かされるまち小金井を作り上げるために、今年度も一生懸命、頑張ってお手伝いさせていただきます。

それでは、時間も限られておりますので、40分くらいで私の、30分か40分くらいで私からのご報告をさせていただき、市政報告をさせていただいて、極力、残された時間はすべて質疑応答に活用させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、市政方針をですね、まず1ページ目からお開きいただきたいと思っております。まず、ここに書いてございますのは、小金井市の最重要課題であります、ごみ問題について、方針や現状についてお示しをさせていただいております。平成32年の4月の稼働をめざしまして、今、順調に建設工事に向けたさまざまな取り組みを行っております。昨年末には、DBO。設計、建設、運営を一括して担っていただけた事業者の入札も終わりました。今年の秋くらいから本格的な工事を始めさせていただき準備を進めてございます。しかしながら、平成29年度、平成30年度、平成31年度のこの3年間は、引き続き、小金井の市民の方々の、また事業者の方々の可燃ごみは、多摩地域の各自治体の、そして組合の方々のご支援をいただかなければいけない状況です。また、平成29年度からは、これまでの枠組みが変わりまして、第2ブロックというですね、広域支援の一定のルールがございまして、第2ブロックの中での可燃ごみの支援をいただいております。多摩川衛生組合、国分寺市、これは従来どおり継続です。そして新たに、三鷹と調布で構成するふじみ衛生組合、そして新たに、東久留米市、西東京市、清瀬市で構成される柳泉園組合、4団体の方々に13600トンの可燃ごみの処理のご支援をいただいております。大変感謝をいたしております。したがって、各自治体の皆様方には、小金井の可燃ごみのご協力をいただき、塵芥車もその自治体の中を通らせていただいております。途中通過する自治体もございまして。これからも、このごみの減量というものに関しましては、本当に市民の皆様方のご理解、ご協力によりまして、大変大きな成果をあげておりますが、残された3年間を、また、浅川が稼働したとしても、この可燃ごみの減量政策には、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

なお、平成19年度から二枚橋衛生組合が稼働を停止し、もう、10年目を迎えました。長い間ご支援をいただいております。しかし、この間の市民の方々のご努

力によりまして、小金井市は人口10万人から50万人未満の自治体の中では、一人当たりの、市民の方々の、お出しになるごみの量が一番少ない、そしてリサイクル率も49.7%。これは平成26年度の数字ですけれども。一番リサイクル率も進んでいるという。大変、市民の方々のご努力によりまして、そのような資源循環型をめざした成果をあげていただいております。最近、小金井市のリサイクル率も50%を超えたという報告を職員から聞いております。また、市民の方々だけではなくて、小金井では、大型スーパーを含めた事業者の方々にも、そのお店から販売された、さまざまな生活に関係する、いわゆるごみと呼ばれるもの、資源循環できるリサイクル製品、こういったものを自主回収していただいております。この取り組みは大変成果をあげてございまして、今年度につきましても、1店舗でも、2店舗でも多く、事業者の方々にリサイクル推進協力店として、ご協力いただけるように。市民の減量推進委員の方々のご努力にも大変感謝をいたしております。がんばってまいりたいと思っております。

続きまして、2ページ目、3ページ目のほうに入っていきたいと思っております。2ページ目、3ページ目には、私がめざす大きな基本方針について、書かせていただいております。特に、「2 平成29年度予算の概要と市政運営の基本理念」というところに関しましては、一般会計、特別会計を含めまして、平成29年度は642億7080万2千円の予算を編成させていただき、去る3月に開催されました、小金井市議会第1回定例会におきまして、予算案、人事案、各種条例案、すべての議案を原案どおり、市議会の皆様方にご議決をいただけることができました。大変感謝をいたしております。今後はこの予算の適切な執行。そしてこの予算の中には、たくさんの施策が盛り込まれておりますので、この施策をしっかりと計画どおり進めてまいりたいと、このように思っております。また、2ページ目の下のほうでは、市民と行政が共有するグランドデザイン作りに取り組むということで、まず、市長に就任して1年目。そして2年目を迎えるにあたりましては、この間の対話というものを積み重ねていきたいというふうに思っております。

そして3ページ目のところでは、真の行財政改革の取り組みを大変重要視していることを表明させていただきました。小金井市の財政状況は、非常に厳しい財政状況であることに変わりはありません。また、社会保障を中心に、高齢者対策、障がい

者対策、そして待機児対策を含めた子育て支援対策など、毎年毎年、かなりの規模の財源が、歳出規模が増えてまいります。平成28年度から29年度にかけても、扶助費だけで11億円の予算が増えました。うち、児童福祉費は7億円。保育園に関係する予算は5億円の予算増であります。この傾向は、しばらく続くと思っております。そういう状況の中で、歳入をいかに増やしていけるのか、そして歳出を、どのように工夫しながら見直していけるのか。これが非常に重要だと思っております。常々私は、職員の方々とお話をするときには、一人ひとりにおいても、継続すべき仕事、見直すべき仕事、やめるべき事業、新たにに取り組むべき事業、この四つの指標を持って、仕分け意識を持って、たとえ一人であっても、チームであっても、係であっても、課であっても、そういう意識を持って、がんばって取り組んでいただきたいと申し上げております。なお、行財政改革というのは、財政再建に関することだけではなくて、行政の質を高めていくということも、とても大切です。職員の方々の政策立案能力、市民の方々とのコミュニケーション。特に私はコミュニケーション能力やコラボレーション、こういったことがとても大切だと思っております。また、行政も民間活力、民間の知恵、創意工夫、こういったものをどんどん取り入れていく必要があると思っております。私は今回、小金井の市政では、平成29年度から、初めて民間企業との人事交流を二つ始めさせていただきました。一つは、社会福祉協議会の方々との人事交流です。社協から市の福祉部におこしいただき、市の職員が社協に行って、限られた年数を仕事させていただく人事交流です。そして、もう一つは、民間の金融機関との人事交流を初めてスタートさせていただきました。小金井市から2年間、これは信用金庫でありますけれども、出向させていただきます。そして、金融機関からは、1年交代で、職員の方を派遣していただいております。今、その方は、小金井市の企画政策課で仕事していただいております。そして小金井市から出向している者は、価値創造本部、今、名称が変わりまして、地域連携本部でありますけれども、非常に、多摩地域の活性化のために、まちおこしや、人づくりなどに、取り組んで、金融機関のとても、私としてはおおいに期待のできる部署で仕事をさせていただいております。これが10年経てば5人帰ってくるようになります。今、すぐに成果が出るわけではないかもしれませんが、しかし、5年先10年先を見据えて、この民間企業との初めての人事交流は、

おおいに取り組んでまいりたいと、このように考えております。

そして、3ページ目の8行目ですね、「公共施設全体の将来ビジョンの策定と庁舎問題の解決」の取組みにつきまして、少しご報告をさせていただきます。まず本市の状況であります、高度経済成長期にですね、たくさんの公共施設を作りました。学校、保育園、学童保育、集会施設、福祉会館、もちろん庁舎もその一つであります。そして、道路、橋、下水道などのインフラ整備、こういったものがこれから一気に老朽化をしております、一気に更新時期を迎えます。これは小金井市だけの問題ではなくて、全国的な課題でもあります。ちなみに小金井市の職員の方々が、2年、3年ほど前に施設白書というものを作るときに試算をいたしますと、更新すべきものをすべて対応するとすると、1497億円もの予算が必要になる、経費がかかるという試算が出されています。もちろん、これは単純な試算です。国や都の補助金が活用できるものもあります。しかし、約1500億円にもものぼる公共施設の老朽化対策を、すべてを限られた期間で実施をするのは、私の中では不可能だと思っております。無尽蔵に借金をすることができれば、許されるのかもしれませんが、そういうわけにはまいりません。したがって、これから、公共施設の管理総合計画という基本方針を定めさせていただきましたけれども、この小金井市の公共施設マネジメントの方針に基づいて、公共施設の老朽化対策に取り組んでいくことになります。それ以外にも個別の計画というものを定めてまいりますが、まず私としては、たとえば下水道などの管の交換に関しては、長期的な視点に立ち、なるべく平準化をしながら。そして、公共施設の利用料などの受益者負担という原則に基づいて、過度なご負担になって、急激な痛みが出ないように、どのような知恵を出して、工夫をして、この一気にくる更新期に対応していくのかということに、今、向き合っています。その中で、優先すべきこととして、まず三つあげさせていただきます。一つは庁舎であります。二つ目が福祉会館であります。三つ目は不燃系の清掃関連施設でございます。庁舎に関しましては、平成33年度竣工目標ということで、財源見通し、長期的財政スケジュール、そして工程表、ロードマップ、こういったものをお示しをさせていただきました。また、福祉会館につきましては、この間、市民説明会を二度ほど開催させていただきましたけれども、同じく33年度竣工目標。そして、またこれは、庁内での検討結果でありますけれども、最終決

定ではありませんけれども、福社会館も蛇の目の跡地に建設をすることが、最も有力な候補地ということでお示しをさせていただきました。その理由でありますけれども、福社会館は、蛇の目の跡地ならば、市域のほぼ中央にあり、どの地域からも行きやすい場所にあります。二つ目が、福社会館を利用する方々は、障がいをお持ちの方もいらっしゃいます。高齢者の方も多し。車、自転車、そういった公共交通機関だけではない独自の交通手法によっておこしになる方も多く、蛇の目の跡地ならば、一定の駐車場が確保できるというような場所であること。11000平米ございます。そして三点目が、いざ災害が発生したときには、市役所は災害対策本部が設置をされます。そして、福社会館には、社会福祉協議会の方々が中心の存在として担われるわけですが、社協にも災害対策ボランティアの方々を中心とする災害対策ボランティア本部が設置をされますので、やはり、庁舎と福社会館が、一体であるか、近くにあるかは別にしても、同じ敷地内にあるということは、非常に利点があるということです。そして四つ目が、福社会館を利用する方々は、市のさまざまな、市役所の窓口を利用する方が多い。そしていろいろな相談事項の業務がこれから増えてくると思います。そうしますと、福社会館と市役所庁舎というのは、同じ敷地内にあったほうが、非常に、市民の方々にとっても、使いやすく、便利である。こういう四つの理由から、庁内検討の結果、蛇の目の跡地を有力な候補地と定めさせていただきました。なお、福社会館につきましては、7月から市民検討委員会を設置をさせていただきます。このたび、市民公募の選考も内部的には終わりました。7月1日以降ですね、設置される市民検討委員会の方々に、市の素案をお示しをさせていただきます。学識、市民、福祉団体代表、多くの幅広い関係者の方々にお集まりをいただいて、ご議論いただくこととなります。なお、すでに市民説明会、あるいは市議会の方々には、さまざまな市民の方々からは、公民館本館の機能を入れていただきたいという強い要望や、あるいは、福社会館のことは分かったけれども、それまでの間、約4年間、代替施設が必要ではないか。福社会館が閉鎖をして大変困っている。代替施設を作るべきだというご意見をいただいていることは十分承知をいたしております。なお、庁舎につきましては、本庁舎の老朽化、もう築52年を迎えております。そして、本庁舎、第2庁舎、本町暫定、そして貫井北町の健康課、あるいは貫井北町の文書倉庫などなど、小金井市の庁舎機能は大

変分散化をしている大きな課題があります。また、第2庁舎につきましては、もう23年目を迎えております。財政的な課題にも対応しなければいけません。そういう意味で私は庁舎の建設というものは、避けて通れない大きな課題というふうに認識をし、取り組ませていただいております。今日はこの件に関するご質問もたくさんあるかと思いますが、新庁舎、新福祉会館、そして不燃系の清掃関連施設、この三つを大きな課題と、まず優先的な、最優先の、急がれる課題として取り組んでおります。もちろん、その他の公共施設の将来ビジョンにつきましても、各部課を中心に公共施設の管理総合計画に基づいて、今、いろいろな議論がスタートしているところでありまして、下水道などはすでに市民検討委員会を立ち上げさせていただきまして、審議会の中で、迎え来る古い管の付け替え、更新、リプレイス、こういったことに対応する議論をさせていただいております。なお、清掃関連施設につきましては、可燃系のごみにつきましては、平成32年から稼動する、日野、国分寺、小金井、浅川清流環境組合の円滑な稼動が何よりも大事でございますけれども、不燃系につきましては、今、蛇の目の跡地で行っている、カン、ペット。それから貫井北町で行っている、粗大ごみの関係、プラスチックの関係。不燃系のごみの老朽化も大きな課題でございます。特に、貫井北町で稼動している粗大ごみの粉碎施設などは、これから急がれる老朽化対策ということでございます。今後、私といたしましては、二枚橋の跡地、北側部分。それから、今、稼動している、貫井北町の間処理場。この二つを候補地といたしまして、今、市民協議会、地元協議会を開催し、さまざまな議論をさせていただいております。この件につきましては、丁寧に、地元の方々が存在しているわけですので、近隣の、地元の方々のご理解を得られるように、丁寧に議論を進めさせていただきたいと考えております。なお、ちょっと話は戻って申し訳ないのですが、庁舎建設につきましては、そして福祉会館につきましても、これは小金井市にとりましては大変大きな事業になります。浅川清流環境組合も三市で約264億円という大変大きな事業でありますけれども、庁舎と福祉会館だけでも、試算では、80億円近くになる大変大きな事業であり、小金井市としては、庁舎建設はもう50数年ぶりになります。大変大きな事業でありますから、コスト意識というものが大事であり、工期、工費につきましては、コスト意識を持って、なるべく早期に、そして、経費につきましても、過度な、

華美にならぬよう、その意識を持って、がんばってまいりたいと思っております。私といたしましては、どんな庁舎を建てたいんだという意見もよく聞かれるんですけども、私が大切にしているのは、シンプル、長持ち、頑丈、プラス小金井らしさ、華美なものなどはまったく想定してございません。シンプル、長持ち、頑丈、市民の方々にとって使いやすい、そして、長持ち、そして地震にも強い、そういう視点を持って取り組んでまいります。なお、今まで行っていなかった測量が終わりました。庁舎建設予定地。それから今、地歴調査を初めて行っております。なお、今年度に関しましては、専門的知見がどうしても必要になります。技術的支援がどうしても必要になってまいります。蛇の目の跡地をどのように、有効に、あの土地を活用するか、そういった視点を持って、議論をする必要がございますので、専門家の方々の、知恵をいただく必要がありますので、今、建設調査委託業務ということで、建築、設計に、特に、庁舎問題、公共施設に知見のあるの方々のご支援をいただく。そして執務環境調査というものを行わせていただきます。この二つの分野につきましましては、プロポーザルでの公募を行わせていただきまして、申し込みが終了しております、その選考に入るところでございます。この一年間は、市役所、議会の皆様、市民の皆様、そして専門家の方々の英知を結集して、平成4年に蛇の目の跡地を購入してから、もう26年目を迎えております、なんとしても、この庁舎の問題は、先送りをせずに、しっかり解決できるように、一生懸命取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、3ページ目の下のほうは、「駅周辺のまちづくり」について、書かせていただいております。今、小金井は、まちづくりは第二段階に入っております。駅周辺。第一段階は、JR中央線の高架化、そして武蔵小金井駅の南口の第1地区の再開発でございます。こちらは平成23年、24年に終わりました。宮地楽器ホールも、おかげさまで5周年を迎えたところであります。第二段階に関しましては、武蔵小金井駅の南口の第2地区の再開発事業。そして、東小金井駅北口の区画整理事業。これが第二段階だと、私はとらえております。東小金井駅の北口の区画整理事業に関しましては、進捗率が今年度は70%に達する見込みであります。なお、北口のロータリーに関しましては、これまでの6倍の広さとなって、すでにその原形は、共用を3月31日に開始をさせていただきました。これから、上屋根がつい

たり、さまざまな取組みが行われてまいります。今、一番、工事が活発に行われておりまして、私も、しゅっちゅう東小金井駅の北口には、行くわけでありませけれども、行くたびにガードレールの位置が変わったり、いろいろめまぐるしく展開しておりまして、市民の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしております。申し訳ないと思っておりますけれども、31年度の完成に向けまして、今、精一杯取り組んでいるところでございます。なお、武蔵小金井駅の南口の第2地区の再開発につきましては、1月の16日に、小池都知事から権利変換計画の認可をいただきました。これをもって事業化がいよいよスタートしまして、解体工事が進んでおります。解体が非常に速くてですね、毎日見ているわけですがけれども、あとはもう、戸建て住宅がもう1件あるのみ、というような状況でございます。また、今、この解体工事に伴いまして、遺跡調査がですね、行われておりまして、だいぶ注目をされているようであります。小金井市の場合は3万5千年前の石槍などが出てくるということで、国分寺崖線と多摩川がつながっていたのが10万年前と言われておりますが。なお、私、考古学の専門家ではないのが残念ですがけれども、考古学の方々からは、大変関心を持たれているようであります。

そして、次、4ページ目以降からですね、少し個別の政策に入っております。あと10分くらいでは必ず終わるようにします。まず、4ページ目から具体的な政策に入ります。「子育て環境日本一の小金井」についてであります。私は、子育て環境をよくするというのは、小金井市のまちの未来にとって一番大切な視点だというふうに考えて、この間、取り組んでまいりました。無論、待機児解消さえすればいい、なんていうふうには思っておりません。保育の質もあるでしょうし、子育てをするまちの総合力だと思っております。子育て環境日本一というのは、子ども達にとっての、そして保護者の方々にとって、どういうまちが一番いいまちなのかということ議論する上で、このスローガンを掲げさせていただきました。私は、まちの総合力、自然環境、地の利、医療、行政サービス、小学校、中学校の学校教育、治安、もうたくさん課題があるかと思っております。防災対策もそうだと思います。安心、安全という視点もとても大切です。また、切れ目のない子育て支援というものも、大変重要だと思っております。子育て環境日本一をめざす上で、これは、今、一生懸命取り組んでおりますが、小金井市のどういう部分が強みであ

り、どういう部分が弱い、そして他の自治体に比べて至らない点なのか。そういったところをしっかりと見極めていくことも必要だと思っております。なお、まだまだ小金井市の至らない点もあるのですが、5月15日の市報こがねいを今日、持って来ましたが、初めて小金井も、切れ目のない子育て支援を行う上で、これまで行われていなかった、妊婦面接というものを6月1日から開催をすることになりました。だいたい妊婦さんは千少し、毎年いらっしゃるわけでありまして。全員を対象にしながら、六つの地域で開催をさせていただきます。さまざまな悩みや不安があるかと思っておりますので、早目早目に、さまざまな相談機関につなげていくという目的もございます。こういった取組みを、まずはさせていただきます。なお、待機児解消でありますけれども、残念ながら、28年度1年間で、229名の保育所定数を増やしました。認定子ども園の幼稚園部分を含めると268名の定員増を図りました。私が市長になってからは、27、28、29と3ヵ年にまたがりましてけれども、400人近く、保育園の定員を増やしました。しかしながら、これはもう、本当にお詫びをしなければいけませんけれども、昨年4月、154名であった待機児童数は、156名と、2名増えてしまう結果になりました。市議会からも、第2回定例会で、大変厳しいご指摘があるというふうに想定しております。理由はたくさんありますが、もちろん行政の対応が行き届かなかった、もうこのことに尽きると思っております。しかし、一方で、この、供給が需要を生んでいるといひましようか、私自身も正直申し上げて、衝撃を受けました。また、人口増というものもあります。小金井は毎年、500人平均くらいで、この10年間、人口が微増してきましたが、昨年1年間で1300人も人口が増えました。この人口の増え方については、今、庁内でいろいろと分析をしておりますけれども、ファミリー世帯の方々も大変多い。また、新たにご結婚されて、小金井市に住まれる方々も多いと思っております。そういった方々が小金井を選んで住んでいただけているということであれば、それはもう大変うれしいことです。これからは高齢化社会。どんどん高齢化率が進み、生産年齢人口がどんどん減少していくのは、もう明らかでありますので、生産年齢人口をつぐファミリー世代の方々が、小金井市に定着をし、終の棲家にしていただく、そして小金井で育った方が、また小金井を選んでいただける、そういうよい循環をしなければいけないと思っておりますが、そのため

にも、この子育て環境の充実には全力を尽くしてまいりたいと思っております。なお、本年10月1日から、もうすでに認可保育園の開設の準備が整いました。本町3丁目に100人規模の認可保育園を開設いたします。これは民間の方々に作っていただきます。また、平成30年の4月に向けましては、この10月1日開設の保育園を含めて、350名以上の定員増をめざしております。これは、なんとしても達成してまいりたいと、このように思っております。少し駆け足で行きます。なお、保育園の定数が増えているということで、連動して、学童保育の希望者も大変増えております。小金井市は全員入所というものを守ってきました。この伝統は私も守ってまいりたいと考えておりますが、限界を超えておりまして、1.65平米、1人当たり、この面積を確保しなければ、子ども達はその施設に入れません。したがって、もうすでに本町小学校があふれてしまっていて、居場所がなく、やむを得ず、手当てができず、本町小学校の中のランチルームをお借りをして、二つの、今、場所で、学童保育の事業を展開しております。このように、今、子ども達のクラスもですね、昔と違って、私の時代は1クラス40人とか、40以上いましたけれども、最近はもっと少ないわけでありまして、クラスはどんどん増えます。第三小学校も、今年は1年生だけで5クラスでスタートという状況になっております。そういう状況の中で、これから、学童保育の大規模化というものにも対応しなければいけないと考えております。

続きまして、5ページ目のほうには、健康や福祉のことについて書かせていただいております。高齢者施策につきましては、やはり認知症対策、それから地域包括ケアシステム、介護の問題というものが大きな課題であります。また、元気な方々も大変多いわけでありますので、介護の必要な方、そして元気な高齢者の方々、両面しっかり見ながら、三師会の方々や、事業者の方々、地域の方々と、連携をしながら取組みを進めているところであります。なお、特別養護老人ホームの待機者の課題があります。小金井市は312名の待機者がいらっしやいまして、特別養護老人ホームの増設という問題に、ずっと、そういった課題を抱えてきました。今から、15年くらい前でしょうか、つきみの園。農工大のほうにあります、つきみの園を最後に、特別養護老人ホームは開設されておりません。しかしながら幸いに、貫井北町、国家公務員住宅跡地に、民間事業者の方々に、30年5月開設で、久しぶり

の特別養護老人ホームを開設していただけることになりました。ベット数は150床以上準備されると聞いております。また、デイサービスも導入されます。また、ありがたいことに、ここでは保育園。お仕事される方々の保育園を準備される。いわゆる事業所内保育でございます。空きがあれば、地域の方々にも開放しますよというふうに言っただけでおりますので、大変期待をしたいというふうに思っております。

続いては、障がい者施策であります。大変幅広く、奥の深いテーマでございますが、障がい者施策でいいますと、これは市政ではありませんけれども、小金井市ではとても大切な特別支援学校。東京都立特別支援学校の建て替えが、いよいよ今年度で終了いたしまして、平成30年の4月から新しい校舎で、特別支援学校がスタートをします。この間、約4年間ですかね、西国分寺に仮移転をしておりましたけれども、いよいよ先生や生徒達が小金井に帰ってきてくれます。学校との連携、二小、一中との連携を進めてまいりたいと考えております。また、障がい者差別解消条例という小金井市の独自の条例の制定を、今、行っております。これは障がい者差別解消法というものが施行されましたけれども、小金井市は今、独自条例をめざしておりまして、地域自立支援協議会の方々と小金井市役所が一体となって、今、条例制定をしております。この間、障がい者シンポジウムでの意見交換会、また、当事者の方々から声をいただくための意見交換会、3回にわたる意見交換会を開催させていただきました。今年の秋に小金井らしい条例制定ができることをめざして取り組んでおります。

6ページ目でございます。これは駅周辺のまちづくりのことが書いておりますので、ちょっととばします。

7ページ目。これも可燃ごみのこと、あるいは不燃系のごみのことを書いておりますのでとばしますけれども、今年の4月から、ごみの収集体制を大きく変更させていただきました。市民の皆様方には、曜日が変わる、あるいはいつも9時半くらいには持って行っていただいていたのに、お昼になっても、まだ家の前に置かれたままだということで、この1ヶ月間近く、もうたくさんのお電話を、市役所に市民の方々からお寄せをいただきました。ご迷惑をおかけいたしております。本当に申し訳ございません。これは、先ほど申し上げました、第2ブロックでの可燃ごみの

収集体制の変更に伴うものでありまして、少しずつ今、事業者の方々も、ルートが変わりましたから、全部民間委託しているわけでありましてけれども、事業者の方々も一生懸命がんばって、皆様方のごみを収集していただいております。少しずつ改善してきておりますので、ご理解いただければと思います。なお、今年度から新しい取組みとして、7ページの上から8行目に書いておりますけれども、枝木、雑草、落ち葉を戸別収集で、収集をさせていただくことになり、そして、この枝木、雑草、落ち葉につきましては、すべてリサイクル処理をすることになりました。このことについても、たくさんのお問合せをいただいておりますので、担当とはですね、改めて、もう1回市報こがねい、ホームページを使って、枝木、雑草、落ち葉の出し方などについて、丁寧にご説明をする機会を早めに作らせていただきたいと思います。この枝木、雑草、落ち葉のリサイクルが始まったことによりまして、かなり、新たにごみの減量につながっていくものと期待をしております。ぜひ、ご理解いただければと思っております。

また、若干ごみと離れますけれども、安心、安全にも関わりますが、LED街路灯をですね、これから一気に工事を進めさせていただきます。8500灯の街路灯が、小金井市内にはございますが、すでに1500灯はLEDに換えています。残りの7000灯を今年の秋から4ヶ月間程度かけまして、すべて一気にLEDに変更させていただきます。これはESCO事業ということで、電気代がかなりうきます。そのういたお金で10年間分の保守点検も含めた事業をすべて民間事業者の方々に賄っていただくという事業でありまして、行財政改革につきましても、大きな効果を発揮するものと期待をいたしております。また、LEDはCO₂も少なく、消費電力も少なく、また、長寿命ということでもあります。また、照度も今までより明るくなるということでございます。また、大きさもかなりコンパクトになります。このLED事業につきましては、秋からスタートさせていただきたいと考えております。

もう、時間になりました。お伝えしたいこともありますけれども、前回の報告会で、やや私、しゃべりすぎて怒られましたので、ここでいったんきらせていただきまして、質疑応答の時間にさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○司会者

それでは、意見交換に移らせていただきます。これより着座にて進行させていただきます。

では、皆様からのご意見を伺いたいと思いますので、ご意見のある方は、マイクをお持ちいたしますので、挙手をお願いします。ご意見ある方、いかがでしょうか。

○市民A

こんばんは、〇〇3丁目、駅の傍なんですけど、Aと申します。10月に、前回いろいろお話させていただきました。今回、5月との一番の違いは、3月の市議選があった。それを受けてのお話だと思いますけれども。市議選は、史上最低の投票率だったと。それから、選管が、非常に票を数えるのに時間がかかって、各紙から非常に非難を浴びたと思いますけれども。それから、公約の中に、ごみがまったくなかったんですね。前回の市議選では、皆さん、候補者全部、トップにごみの公約がありました。それで、考えてみると、先ほど市長のお話ありましたように、浅川清流（環境）組合ができたので、これで一件落着きということで。沖浦議員にも伺ったんですけれども、腫れ物に触るような感じでこわいということで、皆さん、敬遠されているんですが、まだ依然として、ごみ問題っていうのは、大きいと。これは物理的に大きいとともに、もっと大きな、財政再建に直結する問題だと思います。各論であとで、申し上げたいと思いますけれども。とにかくごみについて、まず、繰り返し、市長の見解を伺いたいと思います。

○西岡市長

はい。ありがとうございます。まず、市議会議員選挙についてでございます。投票率は高いに越したことはなく、投票率の向上というのは、行政の大切な使命だと思っております。また、市政の関心のバロメーターでもあると思っております。私自身の市長選挙のときも、決して高い投票率とは言えなかったと思っております。市民の方々に市政に関心を持っていただけるようにするためにも、こういった対話集会をきめ細かく開催してまいりたいと思っております。なお、市議会議員選挙、

今年の市議会議員選挙から、初めて期日前投票所を1箇所増設させていただきました。これまでは、ずっと第2庁舎の6階で行ってまいりましたが、東小金井地域、東部地域の方々の利便性の向上、投票率の向上を図るために、マロンホールというところで、初めて開催をさせていただきました。木曜日、金曜日の二日間でありましたが、期日前投票全体の1割くらいが、マロンホールから投票されておりましたので、それなりの効果はあったのかなと思っておりますし、私も木曜日、自分の投票はもっと前に終わらせたいんですけども。木曜日、視察に行ってきましたら、東町界隈の方々からは、こういうのを作っていただいて本当によかったです、というご意見をいただきました。まもなく東京都議会議員選挙が始まります。同じくマロンホールで、木曜日、金曜日に実施をさせていただきます。なお、今後、都議選が終わった、そのあとの選挙に関しましては、この二度の投票の状況なども、しっかり分析をしながら、更なる向上、有権者の方々への利便性の向上、曜日の検証、こういったことにも取り組んでいきたいと思っております。しかし選挙関係でいいますと、どうしても選挙管理委員会の方々のご判断にもよるところなので、選挙管理委員会の方々のご判断、ご意見もいただきながら、投票率の向上に努めていきたいと思っております。なお、確かに時間がかかりました。私も現場を見てますし、報告も受けてますし、自分も投票が終わるまで市長室のほうにいました。一つ一つ理由がありましてですね、これはおそらく、今度6月の2日から小金井市議会定例会が始まりますと、市議会議員の皆様方からも、一般質問などで、たくさんのご質問、ご意見、ご要望、ご提言があろうかと思っております。開票立会人制度というのがありまして、選ばれた方がですね、開票立会人というのは投票が滞りなく厳正に、公正に、公平に、しっかり行われているかどうかをチェックする人たちが、開票所に入れるんです、中を見守りができるんですね。そして市議会議員選挙のときには、確か6名ですね、選ばれる方が。で、候補者を各陣営が、出したい人は、立候補するんですね、で、6名以上ですと、抽選になります。今回も抽選になったんだと思います。で、そのうちのお一方のですね、開票立会人のチェックがですね、一枚一枚、こう、チェックができるようではありますが、その開票のチェックが非常に丁寧であったというふうに報告を受けていまして、そのことも一つの、時間がかかってしまった要因というふうに考えております。今後、市議会議員選挙で、開票

で、実際に、事案として起きた現象を、どのように改善する方法があるのかですね、選挙管理委員会のほうで議論していただきたいというふうに考えています。ホームページでなかなか開票状況が更新されない、当落が見れない、ということで、たくさんのご批判、クレームが市役所にあったことも十分承知しております。申し訳ございませんでした。

また、公約、市議会議員選挙のときに、あまりごみの公約がなかったけれども、ごみ問題は、財政にも直結する大事な問題なので、市長の見解を問うということでもございました。もう、ご指摘のとおりでありまして、もちろんごみ問題、ごみ処理というものには、それなりの経費が必要になってまいります。見解ということでありますから、まず、可燃ごみの処理につきましては、本当に日野市の皆様方に、日野市域内に処理施設を建設していただくということに関しましては、感謝をしなければいけません。それ以上に重たく受け止めなければいけないというふうに思っております。したがって、ごみの減量というのは、単に資源をいただいているからだけではなくて、資源循環社会をめざす上でも、とても大切だと思っております。私自身は、小金井市はこのごみの問題で本当に厳しい10年間でありました。これからも、まだまだ3年間支援をいただくこととなりますけれども、ただ一方で、見ようによっては、非常にピンチの状態が、ある意味チャンスにもなった、という見方もあると思っております。そのことで市民の方々に多大なご理解とご協力をいただいたことで、ごみの減量というものが進んでいるのも事実なので、この流れを大切にしていきたいというふうに思っております。なお、課題としては、大変政治的な課題もありますけれども、先ほど申し上げましたように不燃系の清掃関連施設のリプレースがですね、非常に大切になってきます。ここで行われるリプレースが、当面、しばらく長い間、不燃系の処理施設になりますので、この枠組みをしっかりと作っていけるようにしたいというふうに考えております。以上でございます。

○市民B

○町のBと申します。最近の市政についてはわからないですけれども、そして、これから私が聞くことは、これ（施政方針）にのってないことですが、この間、北朝鮮からね、北朝鮮から、ミサイルか何か飛んで来そうになったときにふと

考えて、小金井市に落ちるといふこともあり得ると思つて、小金井市にどういふ対策があるんですか。電話をして聞いてみたら、全然ないみたいなんですよね。そして、じゃあ、なんていふんですか、総務省からお達しがこないかぎりはこちらは動かないんだ。といふので、総務省に聞いてみたら総務省ではないといわれて、結局、総務省の人がいろいろ探してくれた結果、内閣何ですか、官房なんとか庁つて、国民ポータルサイトといふのがあつていふので、そこに行き着いたんですけれど、そんなに熱心に見たわけじゃないんですけど、見たら、東京都ではこうするといふ指針があるみたいなんですよね。小冊子があつたので、それを、さつきちらつと見てたんですけど。でも、実際、小金井市で何か対策しているんでしょうか。といふたら、全然してないといふか。たとえば、核兵器みたいなことをされたときにどうするんでしょうか。といふたら、全然そういう対策はしていないし、要するに、国のほうから言つてこなければ、対策はしないといふか、できないといふか。言つてきたら考えるけど、みたいなことを言われたんですよね。防災課の人なのか、よくわからないんですけど。それで、私は、私がこういうことを言つても、日本の国民が、全体の中でどういふあれかわからないけど、なんか、日本つて、核シェルターの率が0.02%か0.1%かそのくらいらしくて、スイスは、100%といふことらしいんですけどね。ついでに調べたら、家庭用の二人用くらいで、500万円くらいだといふことらしいんですけどね。それで私が考えたのは、だったら、高架線にしないで地下鉄にしたらよかつたんじゃないかと思つたりしたんですよね、中央線を。そうすれば、そこにみんなで逃げられるんじゃないかと思つたりしたんですけど。それで、今度、たとえば福祉会館とかそういうのをやるときに、そういうこともね、考えて、たとえば、必要じゃないかな。といふ思ふんですけどもね。

それと、これとまったく別の話なんですけれども、手話をしてらっしゃる。といふのは、ここで手話を必要とされている人がいらっしゃるんですか、今。いらっしゃるの。

○西岡市長

お答えしますので、ご質問していただいて。

○市民B

この会場に手話を必要とされている人がいらっしゃるんですか。いらっしゃるんですか。

○西岡市長

それはわかりませんが。

○市民B

わからないの。

○西岡市長

常に準備をする、用意をする。そして、いつどなたが入ってこられてもいい体制をつくるというのが、私達の使命だと思っておりますので、求めに応じて準備するのではなくて。

○市民B

なんか、もったいなくないですか。なんか、温泉のかけ流しみたいな感じで、もったいないんじゃないかって気がするんですけど。私にはちょっと。いつでも、どこでもやるっていう姿勢が大事なのか。もったいないんじゃないかっていうのが感じるんですけどね。なんか予約制にするとか。そういうんじゃない、だめなんですかね。

○西岡市長

以上ですか。わかりました。それでは、北朝鮮から発射されるミサイルあるいは危惧される核兵器などについて、市の備えはどうなっているのか、市はどのような対策をとっているのか、ということでございます。まず、一つは、国の防衛に関することでありますから、迎撃ミサイルの配備でありますとか、国民保護に関することでありますとか、こういったものは、ご指摘のように、内閣、防衛省、総務省、外務省、こういったところで国を中心として。また、東京都と国が連携をしながら、都民の安心、安全を守るための取組みを行われていると理解をしております。なお、

小金井市につきましても、直接の防衛対策、ミサイルの配備とかということとはできない、やっていないわけでありますけれども、ただ、Jアラートというですね、防災行政無線を使った、いざ何か、有事が発生したときには、防災行政無線を活用することになりますので、その準備、配備、整備ということは行わせていただいております。また、シェルターなどの準備につきましても、自治体としては行ってはおりませんが、各市民の方々のご判断で、ご自宅などでそういったものを用意している方が、いるかどうかわからないんですけれども、もしかしたら、小金井にもいらっしゃるかもしれません。いずれにしましても、こういった、国の防衛あるいは有事のことに関しましては、国、東京都、そして小金井市と、それぞれ役割分担を持ちながら、対応していくことになると思いますが、私も小金井の市長でございますので、市民の安心、安全を守る、現場での対応が求められてくると思っておりますので、今いただいたご指摘は、重要な視点というふうに受け止めさせていただきたいと思っております。

手話については、担当課長のほうから答弁させていただきます。

○司会者

手話通訳についてのご質問でございます。こちら、事務的なお話として私のほうから回答させていただきます。まず1点は、市長が申し上げたとおり、誰が必要なのかわからないという点がございます。で、それについては二つ理由がありまして、まずこの場に今現在そういったものを必要とされる方がいらっしゃるかどうか確認できないというのが1点ございます。もう一つは、仮に今この場で必要な方がいらっしゃらないにしても、この座談会自体が予約制ではございませんので、いつそういう方がいらっしゃるかわからないので、それに備えるというのがございます。大きくもう一つございまして、障がいのない方に対しましても、手話というものを広めたいという思いも事務方としてはございまして、そういう意味で、いるか、いないか、必要とされている方がいらっしゃるか、いらっしゃらないか、わからない状況にありましても、常に手話通訳をしていただいているというような事情がございます。

○西岡市長

あわせてですね、今日は実は保育士さんも待機していただいております。

○市民B

それも必要ないですよ。

○西岡市長

保育に関してはですね、予約してくださいねというお話をしていますが、予約がなかったとしても、保育士さんには来ていただきます。お子様を連れて来て、市長との座談会があるから来て、そうしたら保育があるということで、今日来られる方もいらっしゃるので、行政としては手話及び保育士さんにつきましては、より多くの方々に来ていただける環境をつくるためにも、必要な判断というふうに考えております。以上でございます。

○市民B

納得できないけど。

○司会者

次の方にマイクをお渡しいたします。

○市民C

〇〇町のCです。今日は、実質3名か4名ということで、非常に少ないなと思うんですけど、それはなぜかということは、考えたほうがいいのかなということで、市のホームページにイベントカレンダーってあるんですよ。で、それにこういう会の、座談会っていうのをなぜ載せないのかなっていうんで、ホームページをいろいろ深掘りすれば、市長のところにも今日の会のことあるんですけど、こういう重要な会議については、他にも市民と協議っていうのがあるんですけども、そういうのに関してはぜひイベントカレンダーの中に載せるっていうことをしたほうがいいのではないかなと、1つ目です。

話は変わるんですけども、29年度の予算ということで399億ということなのですが、その中で、人件費とか、日常のメンテナンスを除いた、投資に使える金額っていうのが、だいたいいくらからいなのかっていうことと、その金額って、たぶん地方債なんかも、借入金も含んだ金額かと思うんですけども、それがいくらからいか。税収が、純粋な税収がいくらからいつていうのが知りたいのと、今度建設する市庁舎及び福祉会館っていうのは、ほとんど地方債でなってるんじゃないかなと思うんですが、そこらを含めて、借金、借金って予算を組んで、将来どうするんですかっていうのが、一つのくくりとして二つ目聞きたいっていうことです。

それにあわせて、福祉会館の撤去の時期っていつなんですかっていうことも含めて、いろいろ施策をあげるのはいいんですけども、お金はどうするんですかっていうことを含めて財政の話を具体的に、いくら税収が余っているんで、余っているっていうか余裕があるんでこれを投資します、とかいうことで教えていただきたいと思います。

○西岡市長

はい、ありがとうございます。まず、市民と市長の座談会。もっとPRをしたほうがいいのではないかというご提言、ご提案です。承ります。ありがとうございます。

○司会者

イベントカレンダーの件につきましては、事務方のほうで答弁をさせていただきます。こちらですね、私も今、ご指摘を受けて確認したんですけども、確かに載っておりませんで、私どもとしては、ホームページ掲載のときにイベントカレンダーのほうに掲載しておりまして、最初の時点では確認していたんですけども。考えられることといたしましては、5月に開催2回しておりまして、1回目が終わった際に1回目を落とす作業をしたんですね、2回目だけを周知するようなかたちに。その際の手続の際に、もしかすると間違えて落としてしまった可能性があります。で、そういった結果がこういうかたちにつながっているんだといたしますと、反省すべきことかと思っておりますので。11月も2回開催いたします。なので、

1 1月の1回目が終わって、2回目の周知をする際に同じようなミスがないように気をつけたいと思います。ありがとうございました。

○西岡市長

この市民と市長の座談会につきましては、ホームページ、ツイッター、市長の部屋。市報こがねいは出てない。

○司会者

載せてます。

○西岡市長

市報こがねい、あとイベントカレンダー。あらゆる、行政が可能な限りのツールを活用して周知をしてまいりたい、このように思っております。私もたくさんの方々に来ていただけるように願っておりますので、努力をしてまいります。

続きまして、予算に関するご質問でございます。今日は細かな数字が、すいません、ご答弁できないので、案件によっては後日、ご対応させていただくこともあるかもしれません。まず、投資的経費がなんなのかということですが、投資的経費というのは行政用語でいいますと、くくりがあります。新規の建設事業であったり。投資的経費というものが多ければ、その自治体の財政の健全性にとって、一つのバロメーターと言われている数字であります。今、ご指摘の投資的経費というのは、いわゆる行政用語で言っているところの投資的経費ではないような感じが、印象を持ちました。人件費以外の施策に使われているものとなりますと、相当な範囲になるのかなと。また、特別会計の中にも、そういったものがありますので、どこの部分が投資的経費にあたって、いくらかいあるのかということにつきましては、このあと市民と市長の座談会が終わったあとにでも、どういう数字が必要になるのかお聞かせいただいて、後ほど資料というかたちで、お渡しさせていただければ大変ありがたいなと思っております。また、市庁舎と福祉会館の財源でございます。今のところ正式に決まったわけではありませんけれども、市庁舎につきましては、すべての経費で約64億円と見越しております。福祉会館につきましては約1

6億円というふうに積算をしております。で、うち庁舎建設基金というものがございまして、これは多ければ多いほうが、当然、起債は起こさなくて済みますので、今、私としてはこの庁舎建設基金を、目標23億円と定めさせていただきました。私が、市長に就任をしたときには、8億2千万円の庁舎建設基金がございましたが、1年間で8億円積み増しをさせていただきました。ただし、今回、ここで測量、地歴調査、建設調査委託業務、執務環境調査委託業務、これで2千数百万円の支出をしておりますから、今は庁舎建設基金は、15億9千9百万円くらいだと思います。そして、この庁舎建設基金は、財政調整基金、庁舎建設基金、それから環境基金、財政調整基金というのは将来の備え、いわゆる、自治体の貯金です。そして、庁舎建設基金。それから環境基金、これはごみです。この三つが非常に重要だと思っておりますが、バランスよく、将来のことにも目配せをしながら。私は、あるお金をその年度でぱっと使い切るという発想ではなくて、将来のことを考えながら適切に基金に積み増しをしていくということを努力して、意識しております。それから、残された部分につきましては、起債ということになります。それから、福祉会館につきましては、基金がございまして、福祉の関係の基金がございまして、ここに、数年前に、福祉会館建設に役立ててほしいという意味も込めて、3億円のご寄付を市民の方からいただいた経過がございまして、これを基金として積んであります。この貴重な、貴重なご寄付を福祉会館の建設に有効に役立てていきたいと思っております。残りは、今の段階では起債ということで想定しております。なお、市の財政全体に、もちろん責任を持っているわけでありまして、昨年、第1回定例会のときに、今まで小金井市がつくったことがない、今後10年間の財政見通しというものを資料として作成をさせていただきました。今日はすいません、持ってきていけばお渡しができたんですけども、こちらもお渡しをさせていただきますが、そちらをぜひご参照いただきたいと思います。このまま、何の事業も行わなければ、毎年20数億円ずつ市の借金は減っていきます。今260億円くらいです。で、このままいきますと、あと10年くらい、10年以内はかなり起債は減っていき、100億円を切る、起債残高ですね、100億円を切るだんになりますが、しかし、すでにやらなければいけない、起債をおこしてなければいけない事業がございまして、この起債残高をなるべく平準化させていきたいというふうに思っております。

それはだいたいどれくらいの水準がいいのか、ここは、その自治体の財政状況にもよるところでありますけれども。今、小金井市は260億円くらいの起債残高を持っております。したがって、これから起こる庁舎、福祉会館、清掃関連施設、そして向かえる公共施設の老朽化。また、それだけではなく、増大する社会補償、こういったものにも向き合っていかなければいけませんので、私としては、なるべく起債が平準化するような、起債の組み方というのが、大事だなと思っております。今の規模よりも落としていきたいと思っております。そして、この公共施設というのは、世代間の負担、世代間の公平性という観点もありまして。庁舎というのは、長く使うものであります。清掃関連施設も長く使うものになりますので、後の世代の方々にも、一定、多少なりともご負担をいただくということも想定しながら、起債を効率よく組まなければいけない。ただ、もちろん、お金があるに越したことはありません。庁舎もですね、すべてを、60億円を全部一気に清算することができれば、それは一番理想なのかもしれませんが、小金井市は今、それができません。先ほど申し上げましたようにたくさんの政策に予算を投入しなければいけませんので、起債というものを、やはり活用させていただくことになります。しかし、その起債の規模が過度に増えてしまって、将来の孫の代、その下の代にもものすごい借金を背負わせることにはならないと、やっちはいけないと思っておりますから、財政に責任を持つという立場で、将来の起債動向をしっかりと見極めながら、起債の活用を図っていくということになろうかと思っております。

それから、福祉会館の撤去がいつなのかということですが、まず、福祉会館の解体工事がスタートいたしました。今年中には福祉会館の解体作業が終わる見通しであります。しかし、大変古く、また、連雀通り以外の面、東西南は住宅と極めて密接に、隣り合わせになっています。ですから、解体作業がですね、非常に技術が要りますし、また、地下構造がありますので、かなりそこは、通常の建物、戸建て住宅を倒す、解体するよりは、もう少し時間がかかるというか、技術も必要だというふうに聞いております。先日、この解体事業者の方とお目にかかれる機会がありましたので、市民の方々への安全を何よりも優先にして解体工事に着手してくださいということは、私からも事業者の方にはお願いをさせていただきました。で、福祉会館の解体工事には、1億6千万円の予算を投入しております。以上です。

○司会者

もし、今の質問に関して足りない部分、追って確認必要な部分ありましたら、帰りにご連絡先と、それと回答必要な部分の確認等させていただきたいと思いますのでいかがでしょうか。

○市民C

9時までいれないんで。

○西岡市長

それでは、投資的経費というのはですね、だいたい予算の規模の何%かということがよく出されるんですけれども。

○市民C

今の話で、私の理解だと、何もしなければ26億円、毎年20億くらい返せますよということは、26億円はフリーに使えるキャッシュっていう考えでいいんですか。ざっくりですけど。それに地方債を借りて、プラスいくらになるかわかりませんが、っていう考えでいいんですか。それなら、それでいいんですけど。

○西岡市長

減少していくということは、当然、その返済も行われているということでありますから、その分、市の財政からは当然持ち出しが出ていくんですね。しかし、起債残高は減っていくということになります。

○市民C

だから、26億円、起債残高が減るっていうことは、26億円のフリーのキャッシュがありますよっていうふうな、逆の見方をすればなるのかなと。

○西岡市長

非常に専門的なことになるんですけども、臨時財政対策債っていうものをですね、小金井市はずっと発行していたんですけども、これを発行しなくてもいい状況になりました。小金井市は、国の交付税をですね、不交付団体になったんですね。財政基準がですね、1を下回らない場合は不交付団体、国からの特別な補助がこない団体。ある意味、実は不交付団体になるということは、財政的にはいいとは言いません、決して。ただ、国の基準は超えているということになるので。その臨時財政対策債っていうものを発行しなくなったっていうことも、起債が増えなくなった一つの要因になっているというふうに思っております。その分自由なキャッシュができたのかという理解ではないです。返済する金額が毎年あるわけです。毎年毎年いろんな、再開発事業ですとか、宮地楽器ホールですとか、学校ですとか、最近で作ったのは、宮地楽器ホール、第2地区。起債にはいろんなものがあります。あと、JR中央線の高架化、これも95億円の起債を20年間組んでますね。いろいろなものの借金を返済していきます。で、新たに借金を増やさなければ、その謝金がどンドンどンドン返済が終わっていき、260億円くらいの起債がですね、毎年20億円ずつくらい減少していくということを申し上げさせていただきました。それは資料をお渡しさせていただきたいと思います。第1回定例会のときに出した、長期的財政見通しといいまして、今後の小金井市の起債残高の動向という資料がありまして、こちらをお渡しさせていただきたいと思っております。

○市民C

それは、ちなみにその、余分な支出が減らしているという理解でいいんですか。

○西岡市長

とは違いますね。

○市民C

とは違う。

○西岡市長

借金の返済がどんどん終わっていくということでもあります。償還年度がくるということですね。起債によっては5年のもの10年のものといっぱいあるわけですね、いろいろなものが積み重なった260億なんで、どんどん返済が終わっていくということです。

○市民C

じゃあ、今は返済が終わっているタイミングなんですか。

○西岡市長

いろんなものがまたがっています。

○市民C

だから、複雑だから一概には言えないんですよね。

○西岡市長

はい。ただ、高架線とか南口の第1地区の再開発事業というのは、それなりの起債にはなっております。

○市民C

ちょっと話はずれるかもしれないけれど、財政が厳しくなって、国民健康保険の料率が上がったじゃないですか。そういうところにしわ寄せがくるってことは、あとあとになって関係してくることに、健康保険料が上がるというのは、いろいろ市民サービスが落ちるといっても苦しいところだなっていうんで、そういう、高齢者対策っていうのもお願いしたいなっていうことで、例えば、一人暮らしをしているならば、ちょっと話ずれちゃいますけどね、連絡すればすぐにつながるようにネットワークをつくるとか、そういうのがこういう文章（市政方針）の中に。子育てっていうのは入っているけど、高齢者っていうのはどうでもいいような。なんかあおりをくっちゃってるけど。これから私は高齢者になるんで、ちょっとそっちのほうもね、お願いしたいなっていうことで財政の話を持ち出したんですけど。

○西岡市長

はい。わかりました。印象としては、そういう印象も持たれるかと思えますけれども、高齢者対策をゆるめたり、抑制したりしてるつもりでは、まったくありません。地域包括ケアシステムづくりということで、今、医師会、歯科医師会、薬剤師会、事業者の方々と力をあわせて、自分らしく地域で生きていける、そういうまちをめざしていきたいと思っています。先日、私は、日常的によくいろんな施設に訪問したり、視察をしておりますけれども、ある老人施設の施設長にこういうふうに言われました。西岡さん、ちょっと部屋に来てくださって言われて、そこに行くと、いろんな方が生活をしています。で、カーテンで仕切られて4人の方が一つの部屋で、高齢者の方が毎日生活をしています。で、その施設長に言われたのは、西岡さん、こういうところで一生を終えたいですかと。そうじゃないですよと。やっぱり自分のふるさととか、自分の自宅とか、家族と一緒に人生の最後は全うしたいはずですよと。ですから市長、施設さえ作ればいい、特別老人ホームの入所環境さえ整えればいいなんて単純に思わないでくださいと。一人でも二人でも自宅に帰れる、そういう地域を作ってくださいと。こういうことを言われました。これはとても大切なメッセージとして受け止めております。特に今、認知症対策がですね、非常に重要なので、おっしゃるように、なるべく健康寿命を延ばして、医療費の抑制に努めるということも大切な視点なので、健康診断、がん検診、予防、それから最近口腔衛生、歯の健康、口の健康もその人の健康にとって非常に重要なものであるというご指摘もいただいておりますので、予防、検診、こういったものにも力を入れていきたいと思っております。特に歯科健診についてはですね、小金井市は他市に比べますと、若干弱いというふうに言われていますが。平成29年度は、小金井市の場合、歯科健診というのはですね、35歳から5歳刻みで80歳まで無料で健診ができることになっているのですが、他の自治体ですと20歳から80歳までできるとかですね、非常に充実している自治体もございます。また大変、半歩なんですけれども、平成29年度からは、35歳からだった健診を30歳、5歳引き下げをしました。一刻も早く健康に関心を持ってもらえるような取組みをしたいというふうに思っております。また、この高齢者対策はですね、元気な高齢者の方々

も増える状況なので、介護ボランティア制度というものも導入しましたし、日本で初めて小金井市ではサブスタッフ制度っていうのを導入しています。これはボランティアの方にももっと一歩進んで、ボランティアの方々が一定期間、かなり密度の濃い研修を行っていただいて、介護事業所でボランティアでヘルパーさんたちのお手伝いをするというサブスタッフです。この制度を導入しております、元気な方は、仲間を支えに行くっていうことで、自分自身もいろんな勉強をしていただくということ。やっぱり最近小金井市では、力を入れているのはさくら体操というものに力を入れておまして、私の母もここに来て、西の台に来て、通っているんですが、結構きつい体操らしいんですけども、とても体にいいそうです。結構きついというのがとても大事なようで、ちょっときついんですが、とてもいい体操をしているということでありました。

また、国民健康保険についてのご質問でございますけれども。まず、平成30年度からですね、国民健康保険の運営主体が大きく変わります。今までは市区町村が保険者となりまして、特別会計のもと運営をしてきましたけれども、これから、都道府県が国民健康保険の運営の主体に移行、制度改革が行われます。

○市民C

ああ、30年度。

○西岡市長

はい、そうです。したがって、平成30年度に、また、東京都全体の制度設計に入りますので、そこでまた、保険料の調整が、制度設計が行われる可能性がございますので。

○市民C

それは一律になるんですか。

○西岡市長

一律に近くなる制度（後に訂正あり）だと思っています。で、この国民健康保険

の制度が、東京都が保険者になったときに、小金井市民の方々の保険の利用料金や、あるいは東京都全体の利用料金がどういう動向になるのか、ということに関しましても、今お渡しできる資料をお渡しさせていただきたいと思っております。今日、手元にないので、C様にお送りさせていただきたいと思います。

○司会者

よろしいでしょうか。

○市民C

最後に一つだけ。

○司会者

はい。

○市民C

最初、ツイッターの話で、忘れましておっしゃってくれて、最初載ってたなと思って、なんで消えたんだろうって不思議に思ったんですが、イベントカレンダーに載せたっていうのは、些細なことかもしれないけど、小金井市ではすごい大きな一歩だなって、私は思っていて。ずいぶん市の方も変わってきたのかなって、私個人的にです。個人的視点だから、いろいろ見方があるから一概には。たまに日曜日に行くと、市役所の方の対応が、なんか一生懸命やっているなっていうのが伝わってきて、なんか雰囲気少し変わってきたのかなって思いました。

○西岡市長

ありがとうございます。とてもうれしい、最後にお言葉をいただきました。日曜日は、あまり知られていないんですが、年末年始、それから祝日以外はですね、日曜日は9時から1時まで、窓口を開庁しています。ですから、平日お忙しい方も、さまざまな届出などは、市役所に来て手続きができるようになっていますし、職員の方々も一生懸命頑張っております。私も窓口で頑張っている職員の方やいろんな課

の方々と職場協議というものを開催しております。全部の課と、1ヶ月に2回、去年の4月からですね、職場協議とって、部長さんや副市長や、そういった方々は入らず、若手の職員の方々と意見交換をやっています。月に2回なので、全部の課と意見交換を終えるまでに2年半くらいかかると言われています。かなり多いので、でも、コンスタントにやっています。そして継続していきます。そのときに常々申し上げていることは、とにかく窓口をかかえている人には、わかりやすいことですが、親切、丁寧、笑顔、これを旨として頑張りましょうということと呼びかけております。ただ、毎日のように市役所には、市長へのメール、手紙、ファックス、電話、いろんな意見がきますし、対応が厳しいではないかとか、いろいろな意見をいただいておりますが。ただ、いろんなご意見が来るんですが、そういう電話とか、手紙とか、メール、来ますと必ず、私も、副市長も、そして担当する係も、課も見ます。ですから、市民からどういう声が寄せられているかってことは把握してございます。したがって、C様のように少し変わってきた、頑張っているんじゃないのっていう声は励みになるので。

○市民C

日曜日は結構、利用者が多いし、非常に対応がすごい丁寧で、すごいなと思って、びっくりしたんですけど。

○西岡市長

本当にありがたいことです。今、全庁にその声を職員に聞いてもらいたいなと。頑張ります。

○司会者

はい、ありがとうございました。次の方。じゃあマイクを。

○西岡市長

ちょっと訂正です。さっき国民健康保険が東京都全部が一律になると、私申し上げましたけれども、ちょっとこれ撤回です。すいません。各市区町村、実情に応じ

て制度設計されているので、東京都全部がオール一律という理解ではございませんので、その辺は東京都と市区町村とがいろんな調整が入ってくると思われま

○市民C

じゃあ、あまり変わらない。

○西岡市長

これは、まだこれからなので。すいません。

○市民A

冒頭の意見交換で、市議選について、選管の不手際、あるいは公約問題、ごみ問題ということ、枕のつもりで申し上げたんですけど、もう少し具体論をやりたいと思います。まず、二週間前に市長と事務局宛にメールで、座談会資料、復習と展望試案というのを差し上げてありますけれども、全部で11項目あると思うんです。その中で、頭からずっと答えていただければ非常に幸いです。難しいということであれば、時間の制約もありますので、とばしていただいても結構かと思

います。で、その中で、特に強調したい問題が二つあります。一つは、ごみ問題で、先ほど総論、まったく、いろんな、私も心強く思っております。で、今度は。具体化する番でございますけれども、西岡市長がいなげやさんの店長とにっこり笑って、お店の前で写っている写真、非常に広く市内で行き渡って、心強く思っております。冒頭のごあいさつにありました、リサイクル協力店を増やすということで、去年が8だったのが、今年13までのびたと。で、これは、ほんの振り出しで、究極の目的は、容器お返し大作戦を一刻も早く始める。それによって、リサイクルがどこにでも順調にはかどる。そういう、具体的には、日野市はすでにやっております。そういうことに、すぐ踏み切ることだと思います。それで、ごく具体的なお話ですけども、武蔵小金井の駅前に二つ大きなスーパーがあります。その二つの一つは、ごみ箱を置いているんですけども、それは市が供給したごみ箱。しかも、駐輪場の中に、こじんまりとやっている。で、回収されたものを市が引き取っておりますと。名前だけ協力店になっております。具体的には申し上げません。その隣には、ブラ

ック企業でかなり有名になっている、昔、放火をされたものがあります。で、そこはまったく、ごみ問題に無関係だと。よく聞いてみると、市がやってくれるから、我々はやらないというような判断をしております。で、ごみ対策課の見解としては、これは、もう少し待ってくれということで、半年間、協力店化の要請は立ち止まっております。一つ具体的なお話を申し上げました。それからもう一つ、すぐにできることは、新聞紙を集団回収してくださいと。で、これは本格的に、今年度動くだろうと思いますけれども。小金井市は、新聞紙の集団回収に加えて、行政回収、週にいっぺんやっています。で、行政回収をまったくやらない23区内の区はたくさんあります。それから、日野市は一回です。月一回に対して、小金井市は毎週やっている。それから、国分寺は隔週。二週間にいっぺんやっています。その結果、小金井市は日野市よりも、一人当たりになると、倍、古い新聞紙を回収しています。で、行政が回収すると、ものすごく高くつきます。具体的には、キロ当たり32円と。それを、ずっと、やめて、やめてゼロにすると、約1億5千万円以上の年間経費が浮いてくるということで、冒頭に申し上げた、財政再建に寄与します。そういうことについての、市長の見解を伺いたいと。それが、重要なことの一つです。

それから、もう一つは、PDCAの確立ということが、いただいた施政方針、失礼しました、財政改革プラン2020というところの、ちょっと見ていただきたいんですけども、開けた目次は、非常に素晴らしいことがたくさん書いてあります。1から5までこれが全部できたら、小金井市はすぐ優等生になると信じております。その中に、7ページに、重点取組項目を最優先で進めるPDCA（特にCAの強化）とありますけれども、この7ページを見てみますと、具体的に何も書いてない。去年も同じようなプランがありました。それで、これをぜひ具体化していただきたい。で、どういうふうにするかということ、市民を巻き込んだ市政評価委員会。で、その頭になる庁内の人を、市長から直接任命していただいて。そうすると、市長の頭と片腕になる人と、例えば、副市長とか、あるいは企画財政部長とか、そういう方が任命されて、その下で事務局を作ると。その事務局が、具体案を作ると。そういうお考えがありますか。以上です。

○西岡市長

A様からですね、市民と市長の座談会について、いろいろ提言、ご意見いただいた資料は、ちゃんと目をとおしております。担当も読んでおります。ちょっと時間の関係があるので、全部をすべて細かく丁寧に答弁できるかどうか、ちょっと自信がありません、すいません。

○市民A

あとでも結構です。メールで回答いただければ幸いです。

○西岡市長

回答をですね、実は、進行具合によってはできない可能性もあったので、回答案みたいなものをですね、少し考えてあります。まず、ごみの関係ですね、具体論ということで。リサイクル推進協力店の拡大は、今年度も、私は進めてまいります。そして、ごみ減量推進委員の市民の皆さん方が、直接スーパーの方々と交渉していただいている例も多々ございまして、とても感謝をいたしております。すでに1店舗は、ご了解いただいていると聞いておりますので。さらにリサイクル推進協力店を増やしていきたいというふうに思っております。それで、新聞紙の集団回収の関係ですとか、古い新聞紙の回収ですとか、日野市の例などを挙げていただきました。ありがとうございます。ごみの減量は、たしかにご指摘のように、処理費用の減少にもつながる側面もございまして、財政再建にもつながる。しかし、リサイクルしてもらうための、何らかの経費がかかる場面もあるんですけれども。しかし、資源循環社会をめざすという上では、とても大切な場面だと思っております。いたしまして、ご提言いただいたような事例も含めて、先進的な取組みも含めて、引き続き、小金井市のごみの減量には、鋭意取り組んでいきたいと思っております。今、市内でも、担当職員はですね、日々、さらにどういう取組みが、小金井市にはできるだろうかということを、今、鋭意考えております。その大きな課題は生ごみです。生ごみの処理をどのように改善していけるのか。今までやってきた、堆肥にして市民の方々に利用してもらう、これもとてもいい取組みだと思っております。また、ご家庭でも、小金井市は5万円の補助を出して、家庭用生ごみ処理機の購入費を助成しております、たしか年間300人くらいの方々に、毎年、導入してい

ただ、補助をさせていただいております。こういった取組みも、これからも続けていかなければいけないというふうには考えております。ただ、補助の額についてはですね、これから、いろいろなご意見があるかも知れません。また、別なことにその分を、生ごみの別なことに、専用した新しい取組みにしたほうがいいんじゃないか、というお声もあるかも知れません。いずれにしても、小金井市のこのごみ問題というのは、けっして終わってはおりません。まずは、32年4月、浅川清流環境組合が確実に、円滑に稼働しなければいけません。そして3年間のご支援をいただくことにもなります。さらなるごみの減量。資源循環社会の確立。そして、冒頭申し上げましたように、不燃系の、小金井市域内でのリプレイスを、なんとしてもこれを実現しなければいけません。中間処理場の機械も、それなりの年数が経っております、もう20年以上稼働し続けておりますので、中間処理場のリプレイス。そして、蛇の目の跡地の中にある、缶、ペットの施設は、あれは暫定的な施設でございますので、今後の大きな課題でございますが。しかし、清掃関連施設のリプレイス、再整備につきましては、地元住民の方々や近隣市民の方々など、多くの方々のご理解をいただかなければいけないテーマでありますから、慎重に、丁寧に進めていきたいと思っております。また、この清掃関連施設の再整備につきましても、財源のかかる、経費の当然伴う事業でありますので、そのことも念頭に入れながら、市政運営に取り組んでまいりたいと思っております。

続きまして、PDCAサイクルの、行財政改革プラン2020の中で、具体案がないのではないかということでございました。で、この行財政改革プラン2020は、策定をさせていただきまして、処方箋、11の処方箋というところですね、かなり具体的な取組みや年度も示させていただきました。で、これからさらに、今年度中にアクションプランという、もう一段階掘り下げた計画書を、今、作る準備をしております。で、このアクションプランの中に、さらに詳細な取組みを例示してまいります。いずれにいたしましても、この行財政改革プランというのは、計画をつくるのが目的ではなく、市民サービス向上のために、実践、実現をすることが何よりも大切だということを、私は職員の皆様方とよく話をさせていただいております。しかし、言うは易し行うは難しでございます、ここに書いている取組みが瞬時にできれば、こんなにすばらしいことはないですが。

○市民A

いつごろできるんですか。

○西岡市長

アクションプランは今年度中に作ります。

○市民A

では、来年の3月まで。

○西岡市長

そういうことですね。

○市民A

また1年遅れますね。

○西岡市長

というわけではありません。平成28年度は、行財政改革プランがまったくなかった空白期間です。第3次行財政改革は、平成27年度で終了しました。ですから、私は二つのことに取り組んできました。一つは、計画がなくてもやらなくてはいけないことは前倒ししてやる、ということでやってきました。もう一つは、この行財政改革プラン2020を作り上げるということでございまして。今日は、あえてすべては申し上げませんが、1次、2次、3次と、長年続いてきた行財政改革の中で、できなかったこと、積み残されたこと、こういったことをこの1年間の中で、かなり実現してきたことも事実であります。例えば、保育料の見直しでありますとか、その他さまざまな取組みに注力してきました。以上です。

○市民A

重ねてうかがいますが、PDCAのプランを前倒しで、今年度中にスタートす

るとか、そういうことは無理でしょうか。

○西岡市長

できるものについてはやっていますし、PDCAプランというのは、掲げたものだけやればよいというものではないと思っています。もう日常の業務の中に、しっかりと植えつけられるということが目標だと、私としては考えておりますので、できるところから、どんどん手を付けていきたいと思っておりますが、この行財政改革プランについて申し上げれば、このPDCAサイクルの考え方、特に、検証と改善するというところに、今まで小金井市は弱さがあつた、という自己分析をしておりますし、市民団体、市民会議の方々からも、そういうご指摘をいただきましたので、検証と改善、ここにしっかりと力を入れて取り組んでいきたいと、このように思っております。

○司会者

よろしいでしょうか。他にご意見等ございますでしょうか。終了時間迫っておりますので、あとお一人の方で終わらせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

市長のほうから何かありますか。

○西岡市長

ないです。はい。

○司会者

もし、特段ご意見等ございませんようでしたら、若干時間早いんですが、終了させていただきますてもよろしいでしょうか。

○西岡市長

では、最後にごあいさつですね。

それでは、本日は、市民と市長の座談会に出席をしていただいた皆さん、ご意見、

ご提言いただいた皆さん、ありがとうございました。いよいよ6月の2日から、市議会議員選挙改選後、事実上初めての、一般質問などが行われる、政策についての具体的な議論が行われる、第2回定例会が開会いたします。議会の皆様方とのさまざまな議論を通じまして、施政方針に掲げた政策の実現に向けて、そして私が目標としている、誇りの持てる小金井、住み続けたいと願われる小金井、市民の力、地域の力が活かされる小金井をめざして、一生懸命努力をしてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございました。

○司会者

本日はお集まりいただきまして、数々のご意見いただきまして、ありがとうございました。では、これで、平成29年度第2回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

今後の参考にいたしますので、アンケートへのご協力もよろしく願いいたします。